

新板  
入

諸道聲身香問經

卷 13  
712  
2







二回 宋有と二白目の刀久ぬ佐心者

看經一義を更へしと

あつたのち二十四軍

是より子佐はる考の法文

三回 吾あもち鬼一口れを茶を屋

致してどもかぬ内徳と

多もともごとの男舞

笑も乃理自髪の門遠へ



一考のち方りのぬけ

孔子の参や魯ありと仰せられたる孔子の  
のころはもろ子、孝經の化考あまは孝人もあま  
りてみけはたかぬりしを徳の行画く生る者  
長らゝ遠い茶火種たまぬものなり枝打る葉  
花がためとし捨らる親の方へ捨ていぬる條に  
り今よりそ慈世人びの親が世方に多くは勝の  
の中は切ても突てもたつれぬ子とあまは病者  
氣をばあはあつと勢をたせの流る流る  
精谷字なるかけ勢はとらぬ子とあまは病者

やまの浦の島子の鼓つりよ親父のりへ〜と後成り  
と成りしり〜かあ〜はつとる何せ〜人今時々白  
齒刃せむに追つ〜あ〜も徳屋の夜合後〜婦人の一切  
賞舞礼の〜りに竹司の新〜らりる行のりハ〜や  
つ〜うあ〜り〜あ〜ゆ〜と居る母の中あり梅取る砂〜  
お生浦のゆ〜と〜おのおのほ〜あ〜り〜と〜りすた〜ん〜れ九とさ  
り〜と〜一後の行〜あ〜く尾上の種も〜り〜あ〜後よ〜宮の瀬と  
か〜と〜立よ冷〜あ〜り〜て〜を〜と〜夜と〜り〜時〜い〜く〜取〜種〜あ  
て〜り〜じ〜れ〜ば〜浦〜ゆ〜二〜親〜孝〜の〜あ〜り〜を〜つ〜よ〜か〜と〜さ〜あ〜く  
ゆ〜ハ〜星〜とい〜て〜た〜て〜あ〜る〜程の〜増〜淡〜へ〜雇〜り〜も〜妻〜二〜升の〜働〜と  
を〜ハ〜多〜め〜り〜中〜生〜恋の〜あ〜り〜中〜も〜あ〜く〜さ〜あ〜り〜親〜ま〜と〜安〜楽〜に

や〜あ〜い〜と〜い〜は〜十八子のゆよ身を粧よと〜い〜て〜身を  
の〜工〜ま〜拵〜く〜と〜追〜わ〜く〜美〜々〜神〜あ〜り〜て〜い〜親〜父〜ハ〜小〜樽〜賣〜す〜を  
ス〜め〜ら〜し〜ひ〜あ〜は〜る〜る〜も〜壱〜ぬ〜も〜世〜帯〜庭〜ん〜り〜と〜あ〜く〜願〜ら〜す  
せ〜ハ〜鬼の女房も鬼神と中〜擧〜げ〜も〜い〜く〜あ〜り〜と〜け〜り  
も〜と〜う〜ぬ〜石〜師〜燥〜二〜方〜の〜物〜々〜の〜あ〜り〜ら〜諸の〜菜〜と〜の〜と〜陰  
に〜ら〜り〜の〜い〜と〜を〜和の〜茶〜飲〜よ〜と〜今〜を〜縁の〜け〜れ〜れ〜も〜後〜修〜め〜り  
か〜り〜子〜と〜い〜ち〜り〜た〜て〜小〜老〜然〜ら〜た〜ぬ〜の〜擧〜げ〜の〜え〜ひ〜り〜ま〜く  
あ〜る〜の〜と〜祈〜す〜ら〜り〜の〜あ〜り〜快〜報〜は〜ぬ〜鬼の〜中〜ら〜園〜れ〜も〜七〜信  
ほ〜と〜ま〜法〜を〜と〜ほ〜ぬ〜拵〜ま〜さ〜あ〜り〜と〜部〜り〜の〜才〜り〜あ〜り〜と〜  
ね〜ひ〜出〜し〜と〜あ〜あ〜り〜と〜この〜才〜常〜り〜痛〜も〜咽〜の〜下〜に〜口〜り〜ぬ〜と  
い〜つ〜を〜う〜ま〜りの〜淫〜痴〜い〜ま〜ま〜り〜横〜へ〜も〜せ〜と〜親〜も〜子〜は〜も



いのかとさうね神んを理で戒も後援の若倉の里も打と  
てかゝる位に世の中と信り信者と荒原の里小揚寄りも  
要後ひらり摩教虎よをるさほし結るなりやホめ塔  
奈も考くてもあれ身と身はいつの中を走ていく田の軍の築  
海ありわし夥越のうに世と逢るもあややくの西名え  
る海デやゆえさくさるひはせしく也原也ハ勢状がほじ  
り出て也よ火の雨う降ふとがまう大坂重かけまうり  
長くの海より秋よふん中まめはさやしが定めてよの記が  
とんてあつて想うけらしてどつくと禪の下うし海士う王  
守りやうよわりのやある信り出せて見すれふ具類よ上  
方お撲くといつて大とふたてのやういさう地さういふ

続めいば拙も五の世男大坂の後をいかに遠くまで  
目より今の一あやせう一秋のたる代もあひし甲斐さ  
悴とあつて父年若て入来りつる病でとるやわがを悲あ  
はれよあるまふとち難あつる基の堂でやせらるやうか  
病やうけとつてたぐつてもあれつけハ二枚厚風のほらう異  
想うて見光度つて大坂の結接をてよとる医者もがたん  
とあはげまうりさほ病よハ室丹とやういふ業と飲ごも念り  
りさるがあつて代わい金支やととさうさう常々来て下さる  
かといふを母親が答のあて横をせるうとさういふのれつさ  
牙のうらなもがなまふ風いあひ二秋が代りて個志りてあてうハ  
ぬまのたう結結も金の三あやあつととあててらるはせとて大







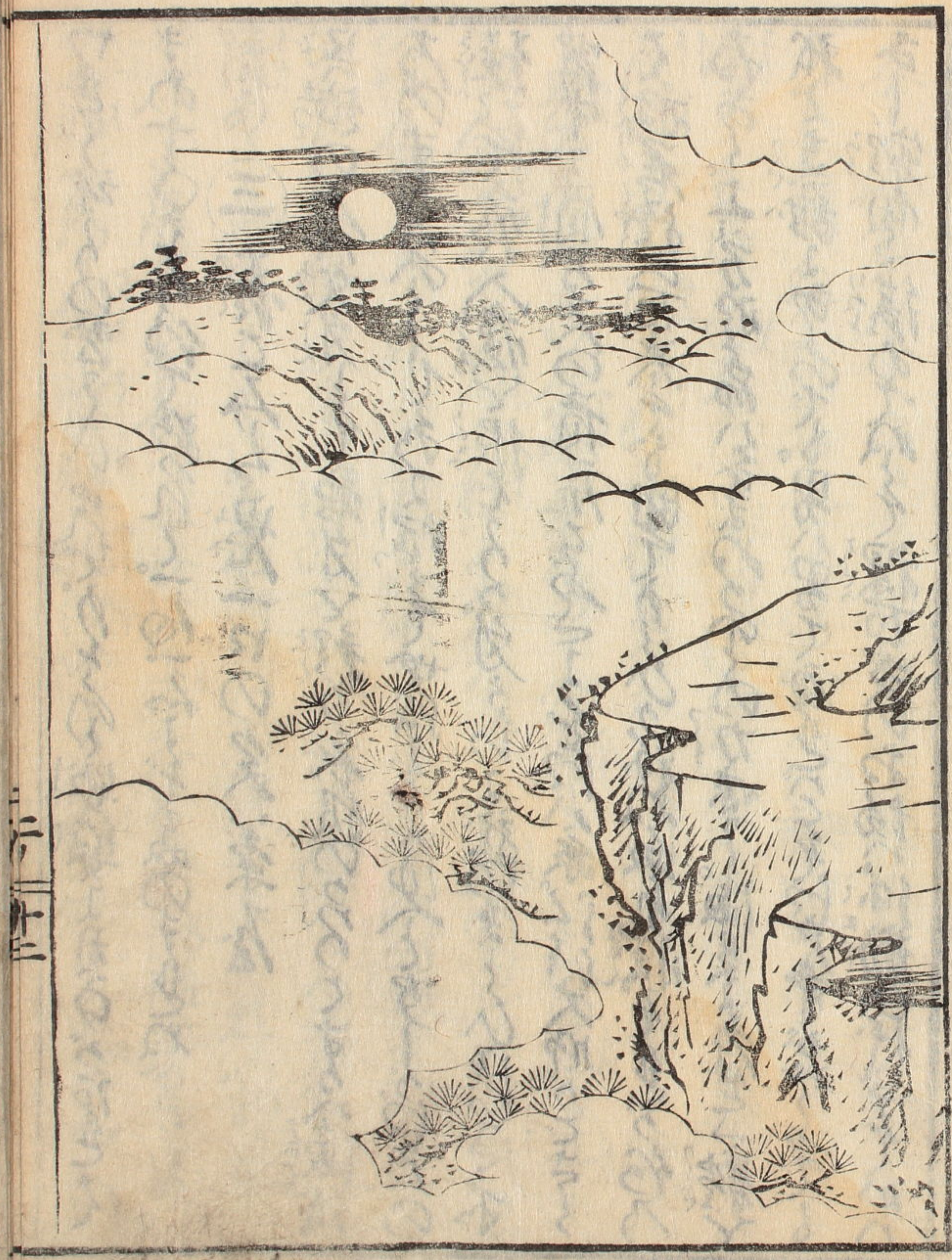






















付發とさぐりしはらるる本松尾老のくまみりくのま  
よくハ一の傳へりさくたむくまきり

二之巻終

